

すいか・ハウス半促成(暁ロマン、一王)

山武農林振興センター

1 地区名(集団名)

山武郡芝山町他(丸朝園芸農業協同組合)

2 栽培戸数、栽培面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 6戸
- (2) 栽培面積 120a
- (3) 収穫量又は出荷量 3,230ケース
- (4) 出荷先又は販売方法 大手スーパー(市場経由)

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	8回	8回
化学肥料(窒素分量)	10.0kg/10a	10.5kg/10a

4 事例のあらまし

丸朝園芸農協のすいかは、それまでの市場オンリーの流通から取引き種苗会社の仲介により、それまでの指定品種に加え、完熟出荷タイプの品種(暁ロマン)の作付けによる契約栽培を持ちかけられました。

本契約栽培は、契約条件として減化学肥料・減化学農薬による特別栽培を求められており、本県の特裁基準はちばエコ基準に準拠することに鑑み、すいか部役員を中心に17年産すいかから指定要件を満たす産地指定方式での取組みとなりました。

本年で2年目に入り、新規導入者も増えてきています。

5 背景・動機

平成17年産すいかの作付けに当たり、大手スーパー(卸業者・東京都中央卸売市場経由)との品種指定(暁ロマン、一王)による契約栽培(ガイドラインに基づく特裁指定)が取り入れられました。

契約販売の条件が特裁指定であれば、ちばエコ基準がそのまま特裁基準となるため、すいか部役員を中心に作付け推進を図り、トンネル栽培と併せ、組合として5haの産地

指定要件を整え、ちばエコ栽培導入に踏み切りました。



6 栽培方法

(1) 土づくり、育苗：土づくりについては、指定の牛糞完熟堆肥の施用を統一基準に導入しています。また、育苗についてもポットによる育苗をベースとし、健全な根張りの確保と食味重視の栽培を基本としています。

(2) 肥料：肥料は従来の専用配合化成のセット肥から、有機態チッソ含量の多い配合肥料を統一セット肥料に加え、ちばエコ基準以下に抑えています。

(3) ほ場選定：特別栽培が前提であるため、土壌中の線虫やホモプシス根腐病をはじめとした土壌病害の心配のないほ場での作付けが前提となります。

これにより、くん蒸剤による土壌消毒を行わず、ネマトリンエースの土壌混和のみによる統一栽培としています。

(4) マルチ資材：ほ場の雑草対策として、マルチ資材はグリーンマルチに統一しています。

本資材については、有色系のポリ資材として抑草効果を期待して取り入れたものですが、2月下旬からの地温調査からすいかの根群域（地表下15～20cm）の地温はグリーンマルチの方が優れており、活着・初期生育の促進・収穫の早期化につながっていることが確認されています。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成16年12月10日
は種	平成16年12月23日
耕起	平成17年1月5日
定植	平成17年2月21日
収穫開始	平成17年5月26日
収穫終了	平成17年6月5日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10 a 当たり)

使用銘柄 (N-P-K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛糞堆肥 (1-1.9-1.9)	平成16年12月25日	2 t	20kg	
ネオマグスター	平成17年2月15日	80kg		
丸朝有機配合西瓜専用7号(7-17-5)	平成17年2月15日	180kg	12.6kg	7.9kg
丸朝化成3号 (12-7-8)	平成17年2月15日	20kg	2.4kg	2.1kg
合 計			35.0kg	10.0kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
オーソサイド水和剤80	炭そ病・べと病・つる枯病	平成17年1月10日
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	平成17年2月15日
ベストガード粒剤	アブラムシ類	平成17年2月21日
ジマンダイセン水和剤	炭そ病・べと病・つる枯病	平成17年2月28日
アントラコール顆粒水和剤	炭そ病・つる枯病	平成17年3月20日
スミレックス水和剤	菌核病・つる枯病	平成17年4月1日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類・ミナミキイロアザミウマ	平成17年5月11日
ベルコート水和剤	うどんこ病・菌核病	平成17年5月11日
化学合成農薬使用回数 8 回		

7 今後の展望等

現状の販売方法は、卸業者・市場を経由しての契約栽培・販売で、丸朝の9集荷場のうち1集荷場で分荷・契約販売体制を取っています。

本栽培の指定品種は草勢が強く、収穫適期幅が狭く技術を要することから、18年産については、ほぼ前年並の作付け申請となっています。

丸朝園芸農協は光センサーによる糖度・熟度測定器を保有しており、今後は慣行栽培のすいか同様同センサー測定値による甘さ保証をうたい、戦略販売をもにらんだ生産・販売に直結したちばエコ栽培の定着・拡大が検討されています。